

令和7年第6回 日高市教育委員会会議録

開催の日時	令和7年6月19日（木曜日） 午後1時40分から午後4時36分まで
会議開催の場所	市役所501会議室
会議の公開又は非公開の別	公開。ただし人事案件については非公開。
非公開理由	個人に関する情報が含まれるため。
出席委員の氏名	島津芳久（教育長）・山川治美・島村由起男・芳澤佐織・馬場優子
欠席委員の氏名	なし
説明員の職氏名	教育部長 森田敏夫・教育部参事 志村憲一・教育総務課長 中條智則・学校教育課長 下ノ坊圭・学校教育課副参事 澤田秀一・生涯学習課長 吉野修・生涯学習課副参事 松本尚也・高麗川小学校校長 半田貞晴・高麗川中学校 久米隆寛・高麗川公民館館長 浅見聡
出席した事務局職員の職氏名	教育総務課主幹 清水寿
傍聴者数	なし
会議資料の名称	会議次第、教育長報告、令和7年第2回日高市議会定例会一般質問通告一覧表、議案第24号から26号

議題及び決定事項等

議案第24号 日高市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について

【原案どおり可決】

議案第25号 日高市社会教育委員の委嘱について

【原案どおり可決】

議案第26号 日高市教育事務の点検評価に係る学識経験者の委嘱について

【原案どおり可決】

会議の経過

1) 前回会議録の承認事項 出席委員異議なく承認

2) 教育長報告の要旨

○教育委員会部課長会議、校長会議における教育長指示・伝達内容について報告した。

○その他、各部課長から、実施した事業等の結果と今後の予定を報告した。

3) 教育長報告についての質疑及び答弁の要旨

【教育長報告（高麗川小、中学校、公民館）関連】

(委員) 令和6年度の「小中合同学校課題研究」における成果について、「地域学校協働活動への協力者をゆるやかに広げることができた（できる人ができるときにできることを）」ということであるが、今後の課題として高麗川や高萩北は小中学校が近接する位置関係で一定の距離間があり、小中一貫教育による学力の成果が現れるには時間がかかるものと思われる。小中学校の教職員が相互に行き来する活動についても、時間割等の都合で調整が難しいということであるが、実践してみているか。例えば「中一ギャップ」の問題を考えた時に、中学校の先生が小学校と積極的に関わられるか否かについては、非常に大切であると考えている。

(高麗川中学校校長) 中学校の教員が定期的に小学校へ行き、児童と面識を持つことができると、児童が中学校に進学する際の心理的ハードルを下げる効果があると考えている。実際にこの2年間の課題研究を進めたところ、当時小学生だった児童が中学校へ進学し、学校で顔を合わせると気軽にあいさつをしてもらえらるような関係性が築けたと感じている。

一方で、常習的な活動を続けるには課題も多く、年数回の合同研修会を実施するのが現状であるが、中学校の英語科教員が週一回小学4年生の授業を行うなど、課題解決に向けた取組も行っている。

(委員) 週一回英語の授業の実施であっても非常に大切であると思うが、その他の教科についても実施できたらよいと考える。違った観点から物事を見て考え、高い視点から働きかけてあげることが大切なので、学力向上に繋がるような取組、非認知能力を育むような取組を考えていただきたい。

小中合同の研修会について、具体的にはどのようなことを行っているのか。

(高麗川中学校校長) 4月に第1回目の研修会を行い、教育の専門機関から講師を招き「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」についてご講演いただいた。

(委員) 小学校と中学校の先生が集まり、お互いの情報共有等を行うような研修はあるのか。

(高麗川中学校校長) 令和5・6年度の取組で実施していた。今年度は違うテーマで取り組んでいる。

(委員) 児童生徒の活動等の情報を共有するような機会が定期的に設けられるとよいと考える。

「経験豊富・指導力が高い教員の学級を中心に学力の改善傾向が見られる」について具体的に伺いたい。

(高麗川小学校校長) 指導経験が豊富な教員は子ども達を引き寄せることに長けており、子ども達が主体的に考える力が身につくようになる。

(委員) 高麗川公民館の老朽化が気になるが改修の予定は。

(教育部長) 現在「公共施設再編計画（第2期）」の策定を進めているが、市全体の施設の数や公民館の在り方等も含めて検討しており、それらを踏まえた改修の計画が示される予定である。

(委員) 日高市では、施設一体型「義務教育学校」と施設分離型・施設隣接型の「小中一貫教育校」を開始することができたが、気を緩めると施設分離型・施設隣接型

の学校では元の教育との違いが分からなくなってしまうのではという漠然とした心配がある。全国の小中一貫教育校の中には、元に戻ってしまうような事例もあるようなので、教育委員会としても注意が必要と考える。日高の特色を生かした小中一貫教育校を進めてもらいたい。

(委員) 中学生が小学生に物事を教える取組は非常に良いと感じた。陸上部の生徒が仲良し運動会陸上指導を行ったとあるが、その成果はいかがか。

(高麗川小学校校長) 仲良し運動会の1週間前に行った取組であるので、その成果の有無の判断は難しいが、小学生にとっては非常に新鮮な気持ちで指導を受け、本番に臨めたのではないかと考える。技能に対する指導というよりも交流を目的とした取組であった。

(委員) 授業の補助について、具体的な内容は。

(高麗川中学校校長) 1月下旬の私立高校の入試を終え、進路が定まった生徒の中から希望者を募り、「お兄さん先生」「お姉さん先生」となって小学校の先生の補助を行った。

(高麗川小学校校長) 主に丸付けや分からなくて困っている児童に優しく教えるような内容である。

(高麗川中学校校長) 中学生としても非常に良い経験となり、「楽しかった」という感想を述べている。

(委員) 体育着の共通仕様については、保護者からすると非常に良い取組と考える。

(高麗川中学校校長) 透けない色の採用や乾きやすい素材等について、検討を進めている。

(委員) 小学生のランドセルについて、それ以外のカバン等でも可能という連絡があったと思うが、実際の使用状況はいかがか。

(高麗川小学校校長) リュック等で通学している児童もいる。そのことについては特にトラブル等は発生していない。

(委員) 小学校高学年になると体の成長に伴いランドセルが不便になる児童もいるので、中学校で使用しているカバンの使用も可とするような柔軟な対応があってもよいかもしれない。

令和6年度の「学校自己評価」について、高麗川中学校の自主学習に関する項目の評価が低かった。自己評価が厳しい教員が多いと全体の評価も厳しい結果となる傾向があるようだが、その結果を踏まえてどのように対応するのか。中学生になると塾に通う子も多くなるなど、自主学習の時間を確保するのも難しくなってくる。小学校の先生や学年によって自主学習の質と量が違うようなので、そのまま中学生になって自主学習をしっかり行うよう指導しても子ども達は対応できないと思われる。小学生の頃から時間の使い方を身につけさせ、少しの時間でも自主学習が行える「癖」がつくと良いと考える。

(教育長) 教員の自己評価については、指導した内容の評価よりも指導した子ども達が良い結果を出さないと、高く評価することは難しい。評価に関する明確な基準等について、学校側でも考えた方が良い。

(委員) 勉強をする上で「読む」「書く」といった行動は重要である一方、デジタル化やAI化も進み、複雑な教育環境となっている。市としても総合的に物事を捉え、

子ども達への教育に取り組んでいただきたい。

【教育長報告関連】

(委員) 「読書感想文の書き方講座」について、自分の言葉を発する練習や書く練習にも繋がると思うので、人数や回数を増やしてもよいと感じた。

移動図書館の利用状況はいかがか。

(教育部長) 拠点の施設(保育所等)に届ける取組も合わせ、昨年度は延べ1,000人以上の貸借があった。

(委員) 一般質問の「自殺対策」について、不登校児童生徒への支援にタブレットの使用はとあるが、その内容はいかがか。

(教育部長) 市では「自殺対策計画」を策定し、居場所や人と繋がる手段について示している。その中で、タブレットを使用している児童生徒に対して自殺対策に繋がる有効な手段等があるかという内容である。

(委員) 一般質問の図書館と書店の連携について、図書館向け書籍の販売事業者からの購入が多くなっている理由等を再度伺いたい。

(森田部長) 図書の表紙の痛みを軽減するフィルムの貼付や、探したい本を簡単に見つけられるための管理用バーコードの貼付が全て整っている状態で納品されるので、利用者への速やかなサービスの提供が可能となるためである。

(委員) 書店との連携という質問の意図は。

(教育部長) 市町村の中にあつた書店の閉店が多発し、本と触れ合う機会も減ってきていることに危機感を覚えているということで、図書館のイベントに書店も参加する等で減少してしまった書店を盛り上げる必要があるという内容であつた。ただ、現段階では行政が介入する仕組みや方向性は国としても定まっていないので、動向を注視する必要がある。

(委員) 図書文化とICT化ではそれぞれの方向性が逆行することにもなるが、それらをどのようにしてバランスを取るかが重要である。学校でも読書の時間を設けたりしているのか。

(教育部参事) 「朝読書」という時間を設け、学級文庫等の読書を行っている。

(委員) 学校によって本の種類や電子ブックの可否を定めることなく、統一したルールで実施していただきたい。読書をする習慣を身に着けさせるには必要な時間であると考えている。

(教育長) 「朝読書」については、学校によって時間も曜日も異なるが、目的やねらいが統一され、子どもや家庭に説明できる状態であれば問題ないものと考えている。

(委員) 一般質問で「社会保障教育」についてとあるが、国の制度である社会保障の仕組み等について子ども達が学び、考えることは非常に大事である。

西部教育事務所の管理訪問の内容は。

(学校教育課長) 例えば、学校の理科室にある薬品が台帳管理の数字と一致しているか等について確認するために訪問している。

(委員) 教員の授業を視察し指導力の向上に繋げる「指導訪問」と、学校施設で危険な箇所や不適当な管理等の有無を確認し事故の未然防止に繋げる「管理訪問」がある。

- (委員) 保健室の医療用品の不足が感じられる。
- (学校教育課長) 確認、対応を行う。
- (委員) 校長会議の中で時間外在校等時間が少ないことが注目されているとあるが、実際にその時間は少ないのか。また、どこから注目されているのか。
- (教育長) 結果を良くするため、故意に時間を短くするようなことはしていない。注目している相手は県教育委員会であるが、その取り組み内容に対して注目されている。例えば、中学校の部活は土日どちらかを休みとしているが、月1回は両日休みにするような取組を行うことで、年間の時間外在校等時間の縮減に繋がる。
- (委員) 改正労働安全衛生規則の施行について、変更点のポイントは。
- (学校教育課長) 事業者が職場における熱中症対策を強化しなければならない点である。
- (教育長) 民間企業が対象となるが、事故防止の計画や発生後の対応のマニュアル化等が必要となり、違反となると労働基準監督署から行政指導等が行われることとなる。
- (委員) 武蔵台小中学校非構造部材耐震補強等工事の請負者が決まったとあるが、市内業者の応札はないものか。
- (教育総務課長) 本工事の内容や条件等を公表し募集を行ったところ、応札のあった事業者は全て市外業者であった。
- (教育部長) 請負者は同等工事の請負実績を有している。
- (委員) 関東甲信越静岡市町村教育委員会連合会総会・研修会（長野県）について、次期学習指導要に向けた検討とあるが、変更点は。
- (教育長) 令和10年度からの学習指導要領を検討するよう中央教育審議会に投げかけた段階であるため、具体的な内容は特にない。新聞等にも少しずつ取り上げられているが、議論のポイントの一つとして、一般の学校でも授業時数を全体的に減らして弾力性、柔軟性のある時間割が編成できるようにする点が挙げられている。
- (委員) より良い方向に進むのであればいいが、私立と公立の小中学校に格差が生じることを危惧している。
- (委員) 資料1の日高市スポーツ協会定期総会の中にある「中学校の部活動地域展開について概略をお話した」ことについて伺いたい。
- (教育長) 以前は「部活動の地域移行」という言葉を使用していたが、教員の働き方改革が目的になっているといった誤った解釈が発生していた。子どもの数が減ることによって教員や学校の数も減ることとなり、子ども達がやりたいスポーツや文化活動が学校でできなくなっている。そのため、地域の方々にも協力いただいて子ども達の活動を支えていくことが目的であり、言葉としても「地域展開」という呼び名が変わった。具体的な内容は今後検討を進めていくので、ご協力をお願いしたいとお話した。
- (委員) 一般質問の答弁についても、今のお話と同じような内容と解釈してよろしいか。
- (教育部参事) 一般質問に対しては、令和4年のガイドラインには、改革推進期間が令和5・6・7年度、実行期間の前期が令和8・9・10年度、後期が11・12・13年度と示されているので、それらに沿って進めていくと答弁した。

(教育長) 国からは、令和 10 年度までに着手するよう示されているので、それに間に合うよう準備を進めていく。

(委員) 一般質問で「ハラスメントについて」とあるが、学校におけるカスタマーハラスメントの実態としてはいかがか。

(教育部参事) 全校に確認したところ、不当な要求をされるような極端な案件はなかったが、口調が強い等の軽度の事案はあった。

(委員) 教育長報告の資料 1 について、川越大会の教育研究部会で不登校対策の内容があったようだが、参考になる内容等があったか。

(教育長) 文部科学省からの話で話題も大きく、全体的な内容であったため具体的な内容を示すものではなかった。国としても不登校対策が重要であることは認識しており、改善に向けた事業には補助金等の財源もあるので活用してもらいたいという内容であった。また、県も相談窓口を設けるなどの取組を始めているようである。

(委員) 日常で気になった点について、登校時間を過ぎ、スマートフォンを見ながら登校している児童の姿を目撃した。理由があり、手続等行った上で持ってきているのかもしれないが、最低限のルールは守る必要がある。良いこと・悪いことの判断や守らなければいけないことについて、注意喚起していただきたい。

体育館空調設備工事の進捗状況はいかがか。

(教育総務課長) 各学校に機器の搬入が行われ、設置を進めている状況であるが、電源については空調設備を動かす電力の供給工事を電力会社に施工してもらうため、その手続と工事準備等に時間を要している。7 月中の使用は困難であるため、8 月頃から試運転を含めた使用ができるスケジュールで進めている。

(委員) 生徒総会を体育館で 2 時間行い、体調不良になった生徒がいると聞いたので、そのような対策のためにも早期使用ができることを望む。

(委員) 教育長報告の資料 1 について、武蔵台小中学校へ県教育委員会が学校指導訪問を行ったとあるが、どのような内容か、また、指摘事項等あったか。

(教育長) 教員の授業を県の指導主事クラスの職員が観察し、1 対 1 の指導が行われる。基本的には、午前中に授業の様子を観察し、午後は教科ごとでグループに分かれて指導が行われる。指導の内容としては、指導案の書き方や授業の展開等に係るものであり、教員によっては当日の授業のねらいを事前に報告して終了後に指導をいただくようなケースもある。

(委員) 県の若い職員が現場のベテランの教員に対して、しっかり指導できているのかが気になる。

(教育長) 県職員は相手がベテランか否かに捉われず、その教員がどんなねらいでその授業を行ったかをヒアリングし、必要な指導を行っている。

(委員) 県職員は、該当地域で年間 40～50 時間、3 日に 1 回程度の割合で現場に訪問していると思われる。高い頻度で訪問しているので、自然と指導方法も身につけてくるようである。

(教育長) 教員としては、外部の人に違う視点から観察・指導されることで気付くこともあるので、勉強になるものと考えます。

(委員) 中学 2 年生・義務教育学校 8 年生を対象に実施する「留学体験 1 DAY ツアー」について、実際の英語に触れる機会が得られた後、あまり時間を空けずにその

成果を発揮する場を設けたらどうか。例えば、ALTの授業では英語のみ使用可とするなど英語だけでコミュニケーションを図るようにすれば、留学体験で学んだことが実践されて英語力が身につくのではないかと考える。

体育館の空調工事について、機器の動力の電源は高圧受電設備（キュービクル）を再整備して使用するのか。

（教育総務課長）空調設備用の電力は、災害発生時の避難所対応の改善を目的に新たに引き込む電力を使用する。電力会社との工事手続や調整を進めている。電気の契約については、従来の電気契約と空調用の新たな電気契約の2契約となる。契約数は増えることとなるが、高圧受電設備（キュービクル）が不具合等で停止した場合であっても、空調設備は運転できるような体制が整う。

4）議案についての質疑及び答弁の要旨

議案第24号から第26号 【非公開のため記載せず】

5）その他

（1）次回定例会の日程等について

○7月定例会：7月24日（木曜日）午後1時40分から 委員了承

○8月定例会：8月21日（木曜日）午後1時40分から 委員了承